

# 久納会計FAXニュース



## 新年号 今年はどんな年

平成28年1月26日

Kunoh Accounting Office

久納公認会計士事務所

少々遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。本年もよろしく願い致します。

さて、今回のFAXニュースは例年通り、干支と過去の出来事から今年がどのような年になるのかの推測です。ちなみに今年の干支は**丙申**（へいしん、ひのえ・さる）となります。

### 干支とは

みなさん、干支というとネズミから始まり、イノシシで終わる十二支（じゅうにし）の方を思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、この十二支の方は「枝」であって、主（幹）は甲乙丙丁の十干（じゅっかん）の方なのです。十二支の「支」が「枝」の字の中に含まれ、十干の「干」が「幹」の字の中に含まれること、そして「干支」の字の並びも干から始まることを見ても、十干の方が重要であることはわかっていただけたと思います。十干は10年で一回りし、十二支は12年で一回りします。したがって、十年単位の年回りの方が重要だということになります。

十干は植物が芽を出し、成長し、枯れていく様子にたとえられ、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十字となっています。音読みでは、こう・おつ・へい・てい・ぼ・き・こう・しん・じん・き、です。訓読みはなかなか難しいのですが、次のようにして覚えていただくと、覚えやすいと思います。まず、この十字は二つずつでセットになっています。セットの先が陽を表す兄（え）で、後が陰を表す弟（と）です。そして、それぞれのセットは「木火土金水（もっかどこんすい）」で並んでいます。甲は木の兄なので「きのえ」、乙は木の弟なので「きのと」、丙は火の兄で「ひのえ」、丁は火の弟で「ひのと」、以下、土（つちのえ・つち

のと）、金（かのえ・かのと）、水（みずのえ・みずのと）と続きます。

### 経済学でもある景気循環説

実は経済学でも10年周期の景気変動があるといわれており、これを主張したフランスの経済学者の名前を取って、「ジュグラー循環」と言われています。

また、干支が最初の甲子から最後の癸亥まで一回りするのが60年であり、「還暦」の語源ともなっているわけですが、この60年周期の景気循環もあり、「コンドラチエフ循環（コンドラチエフの波）」といわれています。

10年周期、60年周期の景気変動が欧米でも認識されていることは、干支に通じる何らかの景気循環が存在することをうかがわせるものです。

### 「丙（ひのえ）・申（さる）」の意味

さて、本題の今年の干支です。「丙」は、炳（あきらか）の字の一部です。草木が伸長して、その姿や形がハッキリした状態を表しています。文字学的に言うと、丙の上の「一」は、思い切って伸びる陽気を、「冂」はかこいを表しています。それに「入」という字を書いてあり、陽気が囲いの中に入った状態、つまり物事は盛んになりっぱなしではないということを示しています。ただ、囲いの中でバンと張った状態も表しているので、強い力を感じさせるものです。

「申」は「伸」に通じ、申の漢字の一般解釈は、のびる のばす かさねる などで、伸びるの意味です。新しい勢力が伸びる、台頭すると解されるようです。但し、新しい勢力は善悪両方を指していて、善に限定されていません。また、「電」の屯も同じ字とされており、稲妻、電光石火などの意味にも通じます。こうしてみ

てみると、「申」は速く、大きな動きが連想されます。ただ、「申」は伸びきった状態を表すようで、このままずっと伸び続けると言う意味ではないようです。それでは、過去の丙申の年を見ていくことにします。

### 1956年（昭和31年）の出来事

1956年は高度成長が始まろうとしていた頃です。出来事として次のようなものがあります。

- ① 日本が国際連合に加盟
- ② 池袋で西武、東武、三越などがデパート建設ラッシュ
- ③ 横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市の5市が初の政令指定都市となる
- ④ 日ソ国交回復。しかし、現在に至っても北方領土の問題は解決していません。

事故としては、砂川基地闘争測量の開始をめぐってもめ続けていた砂川基地問題が、10月12日調達庁が警察隊1400人の出動によって測量を強行したため爆発し、260人の負傷者を出す事態となったことなどがあります。

### 1896年（明治29年）の出来事

1896年は豊田佐吉が自動織機を発明した年になります。トヨタグループにとってはとても重要な年といえます。世界では第一回のオリンピックがアテネで開催されました。

ただ、この年は災害が非常に多かった年といえます。4月に福井県勝山町で大火、焼失家屋1200戸。6月には地震で三陸地方を大津波が襲い、死者2万7000人、流出破壊家屋1万3900戸と空前の災害となりました（明治三陸津波）。7月には富山で大水害、流出家屋3000戸。8月には関西地方で暴風雨。函館市で大火、焼失家屋2240戸。8月には秋田県東部から岩手県西部で内陸直下の推定M7.2の大地震が発生、死者209人、全壊家屋5800戸の被害でした。このような災害が今年発生しないことを祈りたいところです。

### 今年はどうな年

丙申という年は、かなり動くことが予想され

ます。「丙」と「申」が共に、強い動きを表しているからです。少々極端かもしれませんが、これまでの常識が吹き飛ばような大きな動きがある年になるかもしれません。ただ、これが良い方向なのか、悪い方向なのかはわかりません。どちらも可能性があります。また、十干でいえば丙は3年目になるため、今年はこの先7年を方向付ける年となります。

昨年は乙未（きのと・ひつじ）でした。もやもやとした状態から動きが発生し、それが今年に引き継がれ、急拡大し、伸びきったところで、来年の丁酉（ひのと・とり）の年に引き継がれ、少し落ち着くといった流れと予想されます。

ただ、昨年はあまり良い年ではなかったと思います。ISの台頭、上海市場の暴落など、どちらかというとも悪いことの方が目立ちました。今年も年初から世界の各地でテロが発生し、株価も原油価格も暴落しています。残念ながら、良い方向に向かっているようには見えません。

何が起こるかわかりませんが、とにかく備えをしておくことが必要だと思います。120年前からの連想では、災害の可能性もあります。ただ、60年前、120年前の出来事では災害以外はあまりびっくりするようなものがないのも事実ですので、杞憂に終わるかもしれません。大きな悪いことが起きずに今年が終わることを祈りたいと思います。

なお、昨年はこの干支からどのような年になるか予想するという新年のFAXニュースが発行できませんでした。遅ればせながら、お詫び申し上げます。途中まで書いたのですが、昨年の干支である乙未（きのとひつじ）が大変難しく、書きあぐねているうちに時期を逸してしまいました。誠に申し訳ありませんでした。

（以上）

#### 参考文献

安岡正篤著『干支の活学』（プレジデント社刊）  
干支歳時記（越玄さんのホームページ）  
ウィキペディア、各種年表など